

令和2年度 地域活性化総合特別区域評価書

作成主体の名称：和歌山県

1 地域活性化総合特別区域の名称

和歌山県「高野・熊野」文化・地域振興総合特区

2 総合特区計画の状況

①総合特区計画の概要

世界遺産関連地域に残された世界的にも貴重な文化財等の地域資源の保全・保護、調査研究への取組を強化するとともに世界遺産としての知名度を活かした優れた観光資源として活用し、観光に関連した社会資本整備、地域通訳案内士制度等による受入環境の整備・充実、効果的なプロモーションの実施、情報発信により一層の地域活性化に資する取組を行う。

②総合特区計画の目指す目標

- (ア) 国内外からの観光客受入促進
- (イ) 県内の文化財等の地域資源の更なる保全・活用
- (ウ) 世界遺産文化研究・情報発信促進

本総合特区においては、県内の世界遺産関連地域（世界遺産の資産が所在する市町及び世界遺産に関連する文化財が所在する市町）に残された文化財等について、さらなる学術調査研究の推進や、市町、住民、文化財所有者等との密接な連携による文化資源の適切な保全を図るとともに、国内で初めて「文化的景観」として高く評価された本地域の文化資源の希少性、独自性といった特性にふさわしく、国内外からの観光客の受入等に努める。

③総合特区の指定時期及び総合特区計画の認定時期

平成23年12月22日指定

平成24年3月9日認定（平成29年3月27日最終認定）

④前年度の評価結果

「観光等分野」総合評価 4.7点

- ・中長期を見据えた着実な取組の成果により、総じて高い達成状況で推移しており、大変優れている。
- ・SDGsに貢献する持続的な観光モデルとして、世界遺産の保全と活用とのバランスを引き続き注視したい。
- ・英語以外の言語の通訳案内士の育成やプロモーション事業など多角的な取組の評価が高い。今後、コロナ禍等により外国人観光客の誘致が難しい環境となるが、長期的には現在の方向に間違いはなく、新たな工夫を取り入れて前進されることを期待。
- ・課題は、通訳案内士の就業促進。産業経済の活性化と地域での新たな就労の場づくりという観点から、着地型旅行商品を開発し、販売促進のために市場流通サイト等

に掲載することを考えていく必要がある。

⑤前年度の評価結果を踏まえた取組状況等

地域通訳案内士の就業機会の拡大を図るため、ガイド団体、旅行会社、ホテル等と通訳案内士とのマッチング事業を企画したものの、令和2年度はコロナの影響で未実施。

令和3年度において、前述のマッチング事業に加え、地域通訳案内士自らがツアーを造成、販売するためのノウハウの習得を目指した研修を実施する予定。

⑥本年度の評価に際して考慮すべき事項

令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、多くの国で海外渡航制限等の措置が取られる中で、日本においても検疫強化・査証の無効化等の水際措置が取られた。同年7月下旬以降は、観光目的の入国こそ認められていないものの、段階的にビジネス目的の入国が再開されていたが、昨秋から年末年始にかけての感染拡大「第3波」により、令和3年1月中旬には全ての対象国・地域とのビジネストラック・レジデンストラックの運用が停止されるなど、国際間での往来は低迷している。

この結果、当特区の世界遺産関連地域における令和2年(1月～12月)の外国人宿泊者数は対前年比91%減少し、地域通訳案内士の活動割合、観光貸切バスの需要も大幅に減少している。

3 目標に向けた取組の進捗に関する評価(別紙1)

①評価指標

評価指標(1): 世界遺産関連地域における観光客総数(延べ人数) [進捗度 70%]

数値目標(1): 10,862,041人(H26年) → 17,600,000人(R2年)

[令和2年目標値 17,600,000人 実績値 12,377,037人、進捗度 70%]

評価指標(2): 世界遺産関連地域における外国人宿泊客総数(延べ人数) [進捗度 7.8%]

数値目標(2): 182,270人(H26年) → 350,000人(R2年)

[令和2年目標値 350,000人 実績値 27,298人、進捗度 7.8%]

評価指標(3): 世界遺産を管理する市町や所有者が実施する維持管理事業及び保存修理事業に対する年間補助事業数 [進捗度 115%]

数値目標(3): 18件(H26年度) → 20件(R2年度)

[令和2年度目標値 20件 実績値 23件、進捗度 115%]

評価指標(4): 地域通訳案内士登録総数 [進捗度 116%]

数値目標(4): 81人(H26年度) → 200人(R2年度)

[令和2年度目標値 200人 実績値 232人、進捗度 116%]

評価指標(5): 地域通訳案内士の活動割合 [進捗度 11.4%]

数値目標(5): 25%(H26年度) → 35%(R2年度)

[令和2年度目標値 35% 実績値 4%、進捗度 11.4%]

サブ指標(5): 地域通訳案内士の紹介機能を備えた外国人観光案内所数

[令和2年度目標値 5箇所 実績値 5カ所]

②寄与度の考え方

該当無し

③総合特区として実現しようとする目標（数値目標を含む）の達成に、特区で実施する各事業が連携することにより与える効果及び道筋

総合特区の評価指標・数値目標は、特区事業や指定地方公共団体の取組のみによって達成するものではなく、関係する団体が一体となって、地域独自の取組を推進することも併せ、全体の取組として達成しようとするものである。世界的に優れた観光資源としての世界遺産関連文化財等を活用するとともに、これらの貴重な文化財等の地域資源の保全・保護、調査研究への取組をより強化しつつ、その研究や情報の発信を促進するとともに、国内外からの観光客誘致を促進するため、規制の特例措置や財政・税制・金融上の支援措置等を活用しながら、地域通訳案内士制度の導入等による受入環境の向上、観光に関連した社会資本整備、効果的なプロモーションの実施、さらに積極的な情報発信を行い、一層の地域活性化に係る取組を行っていく。

④目標達成に向けた実施スケジュール

平成 27 年度に高野山開創 1200 年を迎え、平成 28 年度には世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の追加登録が決定し、さらに令和元年度には世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録 15 周年の節目の年を迎えるなど、国内外から当地域への注目度が高まっている。

引き続き自然をテーマとした「水の国、わかやま。」や、豊富な歴史ストーリー、文化遺産と食・温泉などを組み合わせた旅モデルを提案する「わかやま歴史物語」、サイクリングロードの進捗にあわせPRを展開する「サイクリング王国わかやま」など、効果的なプロモーション活動に併せ、熊野古道やその周辺の新たな魅力を広く情報発信し、観光客の周遊促進や県民総参加による「おもてなし」実践の取組を行い、国内外からの観光客の増加を図る。

国外からの観光客の受入れについては、地域通訳案内士の育成が順調に進み、令和 2 年度までに資格研修・効果測定（口述試験）をクリアした 232 名が登録、案内業務をスタートさせている。引き続き、ホームページを活用した紹介や観光案内所における紹介等の取組を通じ、地域通訳案内士のさらなる認知度向上を図るとともに、登録した地域通訳案内士のスキルアップを図るための現地研修の実施や海外の学校との Web 交流、海外在住者が参加するオンライン観光でのガイド業務など、コロナ禍においても実務経験を積むことができる活動の機会を活用し、質的向上に努める。

文化財等保全事業についても貴重な文化財等の地域資源の保全・保護を図るため今後に向けた協議等を実施する。

さらに、世界遺産の保全と活用という相反するテーマを実践するため、企業のCSR活動の誘致や小中高校生を対象に世界遺産に関する講義と現地ウォークなどを組み合わせた次世代育成事業を実施する。

4 規制の特例措置を活用した事業等の実績及び自己評価（別紙2）

①特定地域活性化事業

①-1 地域限定特例通訳案内士育成等事業（通訳案内士法）

ア 事業の概要

外国人観光客受入体制促進のため、地域限定特例通訳案内士を育成するとともにスキルアップを図る。なお、地域限定特例通訳案内士については、平成30年1月に全国展開されたが、みなし規定により引き続き特例措置の活用が認められている。

イ 評価対象年度における規制の特例措置の活用状況と目標達成への寄与

旅行業者や観光客から、地元に着した通訳案内士についての問い合わせが増加している中、英語のみならず他の言語に対応できるガイドのニーズが高まって来たため、平成29年から新たに中国語、スペイン語、フランス語のガイドを養成している（令和3年3月末時点で英語（212人）、中国語（13人）、スペイン語（4人）、フランス語（3人）を養成）。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により観光需要が激減する中、令和2年度は新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンド観光需要回復期を見据え、高野・熊野エリア、串本エリアにおいてスキルアップ研修を計3回実施するなど地域通訳案内士の質的向上を図った。

②一般地域活性化事業

②-1 貸切バスの臨時営業区域を設定する特例措置（道路運送法）

ア 事業の概要

和歌山県内に営業所を有し、安全性評価認定を受けた貸切バス事業者に限り、特例措置として関西国際空港の区域を営業区域とし、運行が可能。

（当初平成26年4月1日から2年間の措置、令和3年3月31日まで延長）

イ 評価対象年度における規制の活用状況と目標達成への寄与

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による外国人観光客の入国制限に伴い、昨年度と比較し利用実績は大幅に減少。

（公社）日本バス協会が実施している安全性評価認定を受けている8事業者が営業区域の認可を取得しているものの、上記特例措置の活用実績は無し。

平成26年度からの臨時営業区域設定に係る特例措置については、令和2年2月から令和3年1月の1年間に、輸送人員：2,771人、運行回数：71回の活用実績があった。

③規制の特例措置の提案

無し

5 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価

①財政支援：評価対象年度における事業件数1件

<調整費を活用した事業>

該当無し

＜既存の補助制度等による対応が可能となった事業＞

①ー 1 歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業、国宝重要文化財等保存・活用事業 (文化庁)

ア 事業の概要

史跡指定されている文化財について補修や毀損の復旧事業を行う

イ 評価対象年度における財政支援の活用状況と目標達成への寄与

令和 2 年度は 2 件（内国補助金 8,473 千円）の事業を実施した。

ウ 将来の自立に向けた考え方

県費補助金（世界遺産緊急保全事業補助金）を積極的に活用することにより引き続き世界遺産の保全に取り組んでいく。

②税制支援

地域活性化総合特区を対象とする税制支援（特定新規中小会社が発行した株式を取得した場合の課税の特例）が平成 29 年度末で廃止されたことから、該当なし。

③金融支援

該当なし（金融支援を要する事業がないため）

6 地域独自の取組の状況及び自己評価（別紙 3）

世界遺産としての知名度を活かしたプロモーション活動や文化資源の適切な保全と情報発信など様々な取組を通じて地域の活性化を図っている。

(1) 地域独自の税制・財政・金融上の支援措置

世界遺産を管理する市町や所有者が実施する維持管理事業及び保存修理事業に対する補助事業（和歌山県世界遺産緊急保全対策事業）

世界遺産構成資産の文化的価値の維持・保全に繋がるよう、取り組んでいる。

(2) 地方公共団体の権限の範囲内での規制緩和や地域の独自ルールの設定

文化芸術が暮らしの中に息づく心豊かな社会の実現などを目指す和歌山県文化芸術振興条例や、観光が経済に重要な役割を担い、魅力ある活力に満ちた地域社会の実現に寄与することを認識すること等を理念とする和歌山県観光立県推進条例の制定などにより地域活性化に積極的に取り組んでいる。

(3) 地方公共団体等における体制の強化

和歌山県世界遺産センターの設置（平成 17 年 4 月）等により体制を強化し、より魅力のある拠点づくりを図っている。

また平成 26 年 4 月に開設した九度山町の道の駅「柿の郷くどやま」内に、世界遺産情報センターを設け、世界遺産地域の情報を提供している。

(4) その他の地域の責任ある関与として講ずる措置

国内外からの観光客誘客対策として様々な県単独事業を実施し和歌山の魅力の PR やインバウンドの促進などによる地域の活性化を図っている。

7 総合評価

本特区では、規制の特例措置を活用した事業として、平成24年度から高野・熊野通訳案内士育成研修を実施し、「高野・熊野」の世界遺産エリアにおける地域通訳案内士を計232名養成してきたほか、多言語案内表示を設置する観光施設整備補助事業やWi-Fiエリアの拡大、県内移動の利便性向上のための二次交通整備など、訪日外国人観光客の受入体制の整備を進めてきた。

また、平成26年度からは、一般貸切旅客自動車運送事業における営業区域の弾力的運用が認められ、和歌山県を営業区域とする貸切バス事業者であっても、安全性評価の認定を受けるなど一定の要件を満たせば、関西国際空港を発地又は着地とすることが可能となったことから、より効率的な貸切バス運行が実現している。

こうした取組の成果もあって、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の令和元年には、世界遺産関連地域における観光客総数は認定計画期間当初（平成26年）の約1,100万人から約1,700万人にまで増加しており、外国人宿泊客総数も約18万人から約32万人にまで増加している。

また、これらの取組と併せて、世界遺産関連地域に残された貴重な文化財を保全・保護するため、史跡指定されている文化財の補修・復旧事業や、企業・団体等のCSR活動としての参詣道の維持・修復活動の誘致等にも積極的に取り組んでおり、世界遺産の活用と保全の両立を図ってきたところである。

認定計画期間を総じて見れば、最終年度である令和2年度こそ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響もあり、一部目標を達成できなかったものもあるが、当特区の目的である、国内外からの観光客受入促進、文化財等の地域資源の保全・活用について、一定程度の成果を挙げることができたものと考えられる。

特区認定終了後も、引き続き訪日外国人旅行者の受入環境の整備・充実のため、通訳案内士法に基づく地域通訳案内士の養成をはじめ、交通パス等のデジタル化や交通アクセスのさらなる改善、キャッシュレス対応、多言語案内表示等の県域をまたぐ統一的な整備等を進めるとともに、「道普請ウォーク」等の世界遺産保全活動を推進し、世界遺産の保全と活用の両立を図っていく。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成26年)	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
数値目標(1) 10,862,041人(H26年)→ 17,600,000人(R2年)	目標値		11,800,000人	12,000,000人	12,200,000人	17,400,000人	17,600,000人
	実績値	10,862,041人	17,640,709人	16,770,258人	17,225,266人	17,299,242人	12,377,037人
寄与度(※):100(%)	進捗度(%)		149%	140%	141%	99%	70%
代替指標の考え方は定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合							
評価指標(1) 世界遺産関連地域 における観光客総 数(延べ人数)	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	<p>平成28年10月の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の追加登録を契機に、地方創生加速化交付金を活用し、追加登録地域に誘導板、案内板、解説板を設置するとともに、本県世界遺産の保全と活用の活動拠点である県世界遺産センターのリニューアルを行い来訪者の受入体制の整備を実施した。</p> <p>平成29年、世界的な旅行雑誌の「ロンリープラネット」で紀伊半島が世界の訪れるべき地域のベスト5に選出されるなど、現在、国内外から当地域に注目度が高まっており、本県で実施している下記のプロモーションと連動し、世界遺産の周辺地域にも国内外からの誘客を促進。</p> <p>(本県で実施プロモーション等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水の国、わかやま。」キャンペーン(平成28年7月から実施) ・「わかやま歴史物語」 ・「サイクリング王国わかやま」 など <p>また、平成29年度には、熊野古道の新たな魅力を収集、WEBサイトを作成し、今後、上記プロモーションと絡め、来訪者の周遊を拡大する取り組みを推進。上記に加え、道が世界遺産として登録されているという特色を生かし、「道普請」による企業のCSR活動を積極的に誘致し、世界遺産の保全と活用を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSR活動による環境保全活動の実績 R02 15団体 330人 <p>保全と活用を同時に推進できる「道普請」をはじめ、保全、活用双方の取組を進めるが、今のところ観光客の増加による負の影響などは認められず、両者のバランスに懸念はない。</p>					
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等	<p>目標として、毎年度20万人の増加を見込む。</p> <p>追加登録により、国内外に当地域に注目度が高まっている時に、本県の持つ自然や歴史・文化遺産等と食、温泉などを組み合わせ、具体的にわかりやすく整理し情報発信することで、世界遺産地域に加え、その周辺地域にも、国内外からの誘客に努めることにより、目標の達成を目指す。</p>					
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	<p>平成28年7月から「水の国、わかやま。」キャンペーンにより、世界遺産やその周辺地域への周遊拡大を促進してきたことや、NHK大河ドラマ「真田丸」の放送に合わせたPR・キャンペーン等を積極的に実施。</p> <p>また、平成27年の紀勢自動車道の開通や、京奈和自動車道・那智勝浦新宮道路の延伸により、本県への移動時間が短縮されたことで、観光客総数が大きく増加。</p> <p>平成29年は行楽シーズンの週末に台風が続けて接近した影響で、前年に比べ観光客数が減少したが、依然計画を上回る観光客数で目標を達成。</p> <p>平成30年は、相次いだ台風や豪雨による自然災害で大きな被害を受けた地域があったものの、復旧の支援や被害の大きかったエリアに関する新聞広告掲載やファムツアーなど重点的なキャンペーンを実施することで、平成29年よりも観光客数が増加。</p> <p>令和元年は、7・8月の天候不順や台風の接近などで夏季の観光入込客総数が前年に比べ減少したものの、例年にない長期間のGWや、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の登録15周年記念キャンペーンなどが奏功し、平成30年よりも観光客が増加。</p> <p>令和2年は、7月以降実施の観光需要喚起策により、観光客数は一時的に回復傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響による都道府県間の往来自粛、イベント等の中止、夏休み期間の短縮などが原因で、令和元年よりも観光客数が大幅に減少。</p> <p>H26 10,862,041人 → R02 12,377,037人(目標値17,600,000人 寄与度70%)</p>					
	外部要因等特記事項	新型コロナウイルス感染症の感染拡大					

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■ 目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成26年度)	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
評価指標(2) 世界遺産関連地域における外国人宿泊客総数(延べ人数)	数値目標(2) 182,270人(H26年)⇒ 350,000人(R2年)	目標値		230,000人	260,000人	290,000人	320,000人	350,000人
		実績値	182,270人	275,456人	295,526人	303,185人	323,375人	27,298人
	寄与度(※):100(%)	進捗度(%)		120%	114%	105%	101%	7.8%
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合							
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		外国人観光客誘致のためには、ホスピタリティの充実が不可欠であり、今後のFIT(個人旅行)化の進行、あるいはより目的が特化した旅行、またリピーターの確保に対して、一層きめ細かい対応が必要。国においては海外に向けてビジットジャパン事業など積極的に外国人観光客誘致事業を実施している中、当地域においては、特に需要が見込まれる英語、フランス語、スペイン語、中国語の地域通訳案内士を養成し、外国人観光客の観光資源に対する理解や満足度を高めるとともに、多言語案内板の整備や宿泊施設における接客向上など外国人観光客の受入体制整備の取組を進め、相乗効果を図る。また国や民間のビッグデータを活用した観光客の動態分析を踏まえ、より効果的なプロモーション活動に繋げていく。					
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		平成27年の外国人宿泊客想定人数約20万人をベースに、平成27年から平成32年まで毎年約3万人ずつの伸びにより、平成26年の約18万人の概ね倍増となる35万人の外国人宿泊者数を目指す。					
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		令和2年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により当地域においても外国人観光客が激減したものの、世界的旅行ガイドブック「ロンリープラネット」がその年の最も旬な旅行先を紹介する「ベスト・イン・トラベル2021」のサステナビリティ部門において読者投票で本県が世界で唯一選出されるなど、世界的な注目度は依然として高いことから、令和3年度においても、インバウンド観光の需要回復期に備え、交通バス等のデジタル化の強化や交通アクセスのさらなる改善、キャッシュレス対応、多言語案内表示など県域をまたぐ統一的な整備を進めるとともに、外国人観光客の長期滞在・消費拡大に向け、体験プログラムのインバウンド対応を促進するなど、引き続き世界遺産エリアの受入環境整備を強化する。						
外部要因等特記事項		新型コロナウイルス感染症に関する査証の無効化等の水際措置						

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
評価指標(3) 世界遺産を管理する市町や所有者が実施する維持管理事業及び保存修理事業に対する年間補助事業数	数値目標(3) 18件(H26年度)⇒ 20件(R2年度)	目標値 / 実績値	20件	20件	20件	20件	20件	
		18件	22件	31件	37件	21件	23件	
	寄与度(※):100(%)	進捗度(%) /	110%	155%	185%	105%	115%	
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合							
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		県内の世界遺産関連地域に多く存在する世界的にも貴重な文化財等の地域資源について、県内の文化財所有者等と連携し、保全・保護、活用への取組をより強化することで、地域の活性化につなげるため、貴重な文化財等を管理する市町や所有者が実施する、維持管理事業や保存修理事業に補助と技術的な助言を行う。					
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		平成28年度以降は、平成24年度から平成26年度までの実績値の平均件数から算出した見込み件数。文化財等の保全事業の取組強化により、県民の文化財に対する保全意識が向上し、地域の活性化に繋がる。					
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		進捗度が80%以上のため、記載省略						
外部要因等特記事項								

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■ 目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成26年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
評価指標(4) 地域通訳案内士登録総数	数値目標(4) 81人(H26年度末)⇒ 200人(R2年度末)	目標値		120人	140人	160人	180人	200人
		実績値	81人	126人	146人	180人	206人	232人
	寄与度(※):100(%)	進捗度(%)		105%	104%	113%	114%	116%
	代替指標の考え方やまたは定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合							
	目標達成の考え方や及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		外国人観光客誘致のためには、ホスピタリティの充実が不可欠であり、今後のFIT(個人旅行)化の進行、あるいはより目的が特化した旅行、またリピーターの確保に対して、一層きめ細かい対応が必要である。当地域においては、多言語案内板の整備や宿泊施設における接客向上など、外国人観光客の受入体制整備の取組との相乗効果を図りながら、従来からの英語に加え、平成29年より特に需要が見込まれるフランス語、スペイン語、中国語の地域通訳案内士を養成することとした。今後も外国人観光客の観光資源に対する理解や満足度を高めていく。					
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		平成26年度までに81人の地域通訳案内士を育成したが、今後さらに外国人観光客を増加させるためには、対応できる地域通訳案内士をさらに増やすことが必要。 年間20人の地域通訳案内士を育成できると見込んでおり、5年間で約100人を育成することを目標。					
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		進捗度が80%以上のため、記載省略					
外部要因等特記事項								

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■ 目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成26年)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
数値目標(5) 25%(H26年度末)⇒ 35%(R2年度末)	目標値		27%	29%	31%	33%	35%
	実績値	25%	41%	隔年調査のため実績値なし	45%	隔年調査のため実績値なし	4%
寄与度(※):100(%)	進捗度(%)		152%	隔年調査のため実績値なし	145%	隔年調査のため実績値なし	11.4%
代替指標の考え方や定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合							
目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		外国人観光客誘致のためには、ホスピタリティの充実が不可欠であり、今後のFIT(個人旅行)化の進行、あるいはより目的が特化した旅行、またリピーターの確保に対して、一層きめ細かい対応が必要。国においては海外に向けてビジット・ジャパン事業など積極的に外国人観光客誘致事業を実施している中、当地域においては、特に需要が見込まれる英語、フランス語、スペイン語、中国語の地域通訳案内士を養成し、外国人観光客の観光資源に対する理解や満足度を高めるとともに、多言語案内板の整備や宿泊施設における接客向上など外国人観光客の受入体制整備の取組を進め、相乗効果を図る。また国や民間のビッグデータを活用した観光客の動態分析を踏まえ、より効果的なプロモーション活動に繋げていく。					
評価指標(5) 地域通訳案内士の活動割合	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等	平成26年度までに81人の地域通訳案内士を育成。登録した地域通訳案内士のうち、専業、または兼業として就業している割合が25%にとどまっている現状を踏まえ、高野・熊野地域において十分にガイドできる外国人受入体制を確保するためには、地域通訳案内士の就業人数を増やしていくことだけでなく活動割合の増加を目標とし、年間2%の活動割合の伸び、5年間で10%の伸びを目指す。 地域通訳案内士を対象としたガイド活動状況調査を隔年毎に行うこととし、平成28年度調査では調査対象人数103名のうち回答率52%、活動割合41%となった。平成30年度調査では調査対象人数179名のうち回答率79%、活動割合45%となり、年間2%の活動割合の伸びとなった。令和2年度においてはコロナの影響により、外国人宿泊者数が大幅に減少したことから、これに伴い活動割合も4%にまで落ち込んだ。 令和元年度より通訳案内士の紹介機能を備えた外国人観光案内所数を新たにサブ指標とする。(平成30年度0カ所→令和2年度5カ所)					
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	平成24年度に特区内限定通訳案内士の制度を創設し、平成25年3月には60名が合格し59名が登録、平成26年3月には23名が合格し22名が登録、平成27年3月には22名が合格し22名が登録、平成28年3月には23名が合格し23名が登録、平成29年3月には21名が合格し20名が登録、平成30年3月には35名が合格し34名が登録、令和元年3月には26名が合格し26名が登録、令和2年3月には26名が合格し26名が登録。合計232名を育成。 令和2年度においてもインバウンド観光の需要回復期に備え、地域通訳案内士が登録するメーリングリストにより最新の観光情報を提供することに加え、より実践的なガイドスキルを培うためのスキルアップ研修を実施するとともに、高野・熊野エリア、串本エリアにおいて、多言語外国人モニターに対しガイド業務(1エリア5時間)を行い、改善点などの内容について意見を交換し、ガイドの質的向上を図った。 令和3年度は昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンド観光需要が低迷することが予想されるが、引き続き、ホームページを活用した紹介や地域通訳案内士の紹介機能を備えた外国人観光案内所の拡大などを通じ地域通訳案内士のさらなる認知度向上を図るための環境整備を進めるとともに、登録した地域通訳案内士のスキルアップを図るための現地研修の実施や昨年度は新型コロナウイルスの影響により開催を見送ったビジネスマッチングの実施などを通じ、就業機会の確保に努める。					
	外部要因等特記事項	新型コロナウイルス感染症に関する査証の無効化等の水際措置					

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■規制の特例措置等を活用した事業の実績及び評価

規制の特例措置を活用した事業

特定(国際戦略/地域活性化)事業の名称(事業の詳細は本文4①を参照)	関連する数値目標	規制所管府省による評価
地域限定特例通訳案内士育成等事業	数値目標(1) 数値目標(2) 数値目標(4) 数値目標(5)	規制所管府省名:国土交通省 <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められる <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められない ⇒ <input type="checkbox"/> 要件の見直しの必要性あり <input type="checkbox"/> その他
		<特記事項>

※関連する数値目標の欄には、別紙1の評価指標と数値目標の番号を記載してください。

国との協議の結果、現時点で実現可能なことが明らかになった措置による事業(本文4②に記載したものを除く。)

現時点で実現可能なことが明らかになった措置による事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	備考(活用状況等)

国との協議の結果、全国展開された措置を活用した事業(本文4②に記載したものを除く。)

全国展開された事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	備考(活用状況等)

■地域独自の取組の状況及び自己評価（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

財政・税制・金融上の支援措置

財政支援措置の状況

事業名	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名
和歌山県世界遺産緊急保全対策事業	世界遺産を管理する市町や所有者が実施する維持管理事業及び保存修理事業に対し補助金を交付	数値目標（3）	R2 23件(10,398千円)	和歌山県
税制支援措置の状況				
事業名	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名
無				
金融支援措置の状況				
事業名	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名
無				

規制緩和・強化等

取組	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名
規制緩和				
無				
規制強化				
無				
その他				
取組	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名
○地方公共団体の権限の範囲内での規制緩和や地域の独自ルールの設定 ・和歌山県文化芸術振興条例（平成21年3月） ・和歌山県文化芸術振興基本計画（平成22年4月） ・和歌山県文化財保護条例（昭和31年度） ・和歌山県景観条例（平成20年度） ・和歌山県世界遺産条例（平成17年度） ・和歌山県観光立県推進条例（平成22年度）	・和歌山県文化芸術振興条例 文化芸術の振興に係る基本理念を定め、県の責務を明らかにするとともに、文化芸術の振興に関する施策の基本となる事項を定める。 ・和歌山県文化芸術振興基本計画 文化芸術の振興のために必要な施策の総合的かつ効果的な推進を図るための文化芸術の振興に関する基本的な計画 ・和歌山県文化財保護条例 県内に存する文化財のうち重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じ、もって県民の文化的向上に資する ・和歌山県景観条例 景観計画の策定及び行為の規制等について必要な事項を定めるとともに、県、県民及び事業者の責務を明らかにする ・和歌山県世界遺産条例 世界遺産の保存及び適切な活用について、基本理念を定め、並びに県及び県民等が担う役割を明らかにするとともに、県の基本的施策に関して必要な事項を定める ・和歌山県観光立県推進条例 観光立県の実現のための基本理念を定め、県の責務並びに県民、観光事業者及び観光関係団体の役割を明らかにするとともに、観光振興に関する施策の基本的な事項を定める	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	文化財の保全及び活用、また「紀伊山地の霊場と参詣道」を人類共有の資産として将来の世代へ引き継いで行くことや、観光振興の取組を推進し、魅力ある活力に満ちた地域社会を実現。	和歌山県
○地方公共団体等における体制の強化 ・和歌山県世界遺産センター（H17年4月設置/人員6名） ・道の駅「柿の郷くどやま」（H26年4月設置）	・和歌山県世界遺産センター 世界遺産に関する展示解説、全体像を鳥瞰する衛星地図など、世界遺産に関する情報を一元的に発信 ・道の駅「柿の郷くどやま」 同施設内に世界遺産情報センターを設け、世界遺産地域の情報を発信	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	・和歌山県世界遺産センター 入館者数 R2：81,886人 ・道の駅「くどやま」 入館者数 R2：53.7万人	和歌山県
○その他の地域の責任ある関与として講じる措置 ・世界遺産等推進 ・F I T（外国人個人観光客）誘客促進、国際観光推進 ・インバウンド観光戦略 ・外国人観光客受入環境整備 ・インバウンド受入環境高度化	・世界遺産等推進 世界遺産と日本遺産の本質的価値を再認識し、次世代に良好な状態で資産を継承するとともに、観光地としての魅力を広く伝え、適切な活用を図るための施策を展開 ・F I T（外国人個人観光客）誘客促進、国際観光推進 外国人観光客の誘致を図るため、東アジア、東南アジア及び欧米豪などをターゲットに、世界的なニュースサイト・TV番組・旅行ガイドブック等各種メディアを活用しつつ、対象市場の嗜好を踏まえた戦略的なプロモーションを展開 ・インバウンド観光戦略 外国人観光客の長期滞在型周遊観光を促進し、旅行消費額を増やすため、新規市場の開拓や富裕層等をターゲットとした誘客活動を展開 ・外国人観光客受入環境整備 急増するF I T（外国人個人観光客）が、快適・安全に県内を周遊できる環境を整備するため、和歌山県版通訳ガイドの育成、多言語電話通訳、簡易翻訳サービス等を実施するとともに、外国人目線での体験コンテンツ開発、公衆トイレや多言語案内表示、W i - F i 環境整備等受入環境整備を支援 ・インバウンド受入環境高度化 外国人個人観光客の紀伊半島への周遊及び長期滞在を促進するため、世界遺産エリアを中心に交通アクセスの改善や多言語案内表示など、県域をまたぐ統一的な受入環境整備を推進するとともに、レンタカーでの県内周遊情報の発信を強化	数値目標(1) 数値目標(2) 数値目標(3) 数値目標(4) 数値目標(5)	・世界遺産関連地域における観光客総数（延べ人数） ・R2 12,377,037人 ・世界遺産関連地域における外国人宿泊総数（延べ人数） ・R2 27,298人	和歌山県

特区の掲げる目標の達成に寄与したその他の事業

事業名	事業概要	関連する数値目標	実績	自治体名

体制強化、関連する民間の取組等

体制強化	民間の取組等